

京都上賀茂神社ゆかりの地「金津庄」 と周辺遺跡をめぐる！

【行程】

小坂公民館⇒⇒⇒加茂神社(御所町)⇒⇒⇒津幡ふるさと歴史館⇒⇒⇒加茂遺跡・加茂
※加賀郡勝永札 ※古代の北陸道
神社(津幡町加茂)⇒⇒⇒英田コミュニティプラザ⇒⇒⇒＜昼食・レストランシェミノー
※順徳上皇滞在地
ル＞⇒⇒⇒賀茂神社(横山)⇒⇒⇒上山田貝塚(国指定史跡)⇒⇒⇒西田幾多郎生家とお墓
※縄文時代の中期
⇒⇒⇒小坂公民館

賀茂社

世界文化遺産・京都最古の社

賀茂氏の祖

かもたけつぬみのみこと
賀茂建角身命

いかこやひめのみこと
伊可古夜日売命

たまよりひこのみこと
玉依日子命

たまよりひめのみこと
玉依日売命

ほのいかずちのかみ
火雷神

熊野から大和国(奈良)まで、初代天皇である神武天皇の先導を努めた。その後、大和国から山城国(京都)に移り賀茂川をさかのぼって現在の上賀茂神社の地に住み着いた。

かもみおや
賀茂御祖神社
＜下鴨神社＞

かもわけいかずち
賀茂別雷神社
＜上賀茂神社＞

賀茂川の上流から流れてきた丹塗矢(にぬりや)を寝床に挿したところ妊娠し、賀茂別雷が生まれた。

どういうお話？

片目のフナ
競馬(くらべうま)
葵 祭

第26代
継体天皇

中賀茂の社

継体14年(520)頃

越の国の総鎮守として遷座

加茂神社
(御所村)

天平勝宝5年(753)

加茂神社
(加茂村)

大同元年(806)

閼地神社
(鉢伏村)

大同2年(807)

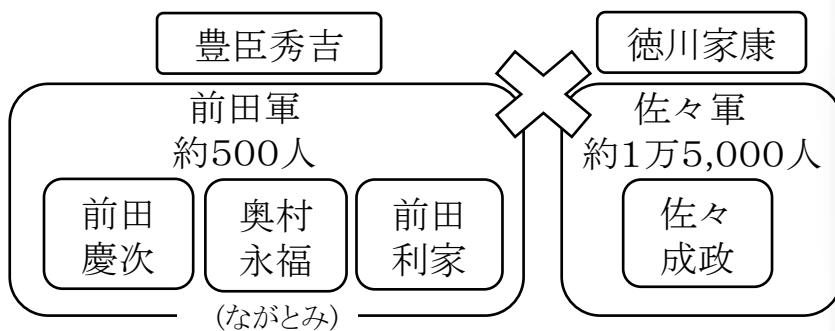
賀茂神社
(横山村)



津 幡 城

- ①1183(寿永2)年の源平合戦の時、倶利伽羅峠の一戦を前に、平維盛(たいらのこれもり)配下がこの地に砦を築いた。
- ②1190(建久元)年頃、井家庄の地頭・都幡(津幡)小三郎隆家が居城した。
- ③1576(天正4)年には、上杉謙信が越中から入って津幡に陣を取り、七尾城を攻略するための拠点とする。
(ひでつぐ)
- ④1583(天正11)年、加賀藩初代藩主前田利家が支配し、弟の秀継に守らせた。
- ⑤翌1584(天正12)年、佐々成政が末森城を攻撃した時、利家は秀継と末森城救援のための軍議をこの城で開く。
- ⑥翌1585(天正13)年、秀継は木舟城(高岡市福岡町)に移ると廃城となる。

末森合戦



西田幾多郎



かほく市森出身。明治3年5月19日、加賀藩の十村役を務めていた西田家の12代目として生まれた。生家は、敷地は約160坪で建坪は約140坪の大屋敷でしたが、幾多郎3歳の時に近火の類焼で消失し、現在の宇野気駅前へ移転した。

石川県立師範学校在学中に哲学の道に進むことを志し、東京帝国大学(現在の東京大学)を卒業する。その後、尋常中学校七尾分校、第四

高等学校で教鞭をとり、1911年に京都帝国大学で哲学を教えていたころ「善の研究」を刊行し、その後「西田哲学」を築いていった。1940年に文化勲章受章。

晩年は鎌倉で過ごし1945年に病没。葬儀は、北鎌倉

の東慶寺で行われ、鈴木大拙は遺骸の前で号泣したと言われている。お墓は、この地と東慶寺、京都の妙心寺にある。

加賀の三太郎とは?

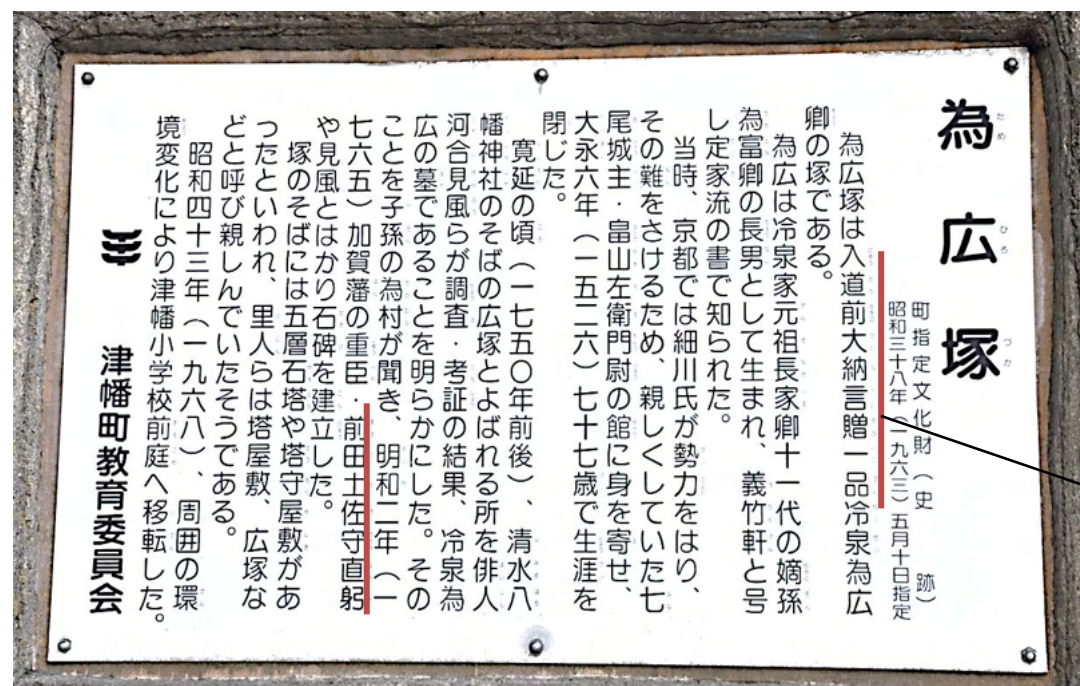
- 〇〇幾多郎 (5月19日生)⇒哲学者
 - 〇〇作太郎 (8月15日生)⇒国文学者
 - 〇〇貞太郎 (11月11日生)⇒禅の研究
- 三名とも明治3年生れ



冷泉家とは

平安後期から鎌倉初期の公家・歌聖と仰がれた藤原俊成(しゅんぜい)、定家(ていか)を先祖に持つ「和歌の名門」である。

冷泉の家名を名乗るのは鎌倉時代の為相(ためすけ)からで、その為相から現代の為人(ためひと)まで 25代約750年間「和歌の家」として引き継がれている。



冷泉為広(ためひろ)

- ・室町時代から戦国時代にかけての公卿・歌人
- ・官位は正二位・大納言
- ・冷泉家六代目

にゅうどう
さきのだいなごん
ぞういっぽい

承久の乱

1221年(承久3年) 後鳥羽上皇らは、幕府から朝廷の力を取り戻す目的で2代執権・北条義時と戦った。しかし、後鳥羽上皇は院宣を出し武士の増強を図ろうとしたが、北条政子の演説をきっかけに幕府の力が朝廷を上回り19万の大軍で京都を制圧され敗れた。

